

# 地域における6次産業化の推進 で、生活困窮者に多様な就労 機会を提供する

社会福祉法人一麦会 執行理事  
柏木克之

# 地方における仕事おこし

## (福祉的就労、中間的就労)

- 地方の経済状況は非常に厳しく、生活困窮者や障害者の雇用機会は少ない。
- 経営体力のある企業が少なく、福祉的側面から支援する余力がない。
- しかし農林水産物等の資源は豊富にあり、農業は後継者不足。
- 平成12年より地域農業を中心に6次産業化の推進で雇用創出の機会を作ってきました。

# ①2次産業（農産加工製造業） から手がける

- 農業は、必要な技術の習得が短期間では無理であり、自然相手の産業なので年間を通じて安定した仕事の確保は難しい。
- 農産物を販売しても、相対的に単価が安く相場の変動に大きく左右される（収益が少ない）
- そこで2次産業の農産加工製造業から事業を開始しました（農産物に付加価値をつける）

# 農産加工製造業の有利性

- 事業の立ち上げは比較的軽設備で創められる。
- 特殊な専門的知識・技術・資格がなくでもできる。ほとんどの人が携われる業種が多い。
- 最近コンパクトな加工製造器具が開発され、小規模の加工場でも創業できる業種が増えてきた。
- 食料品は、消費頻度が高く景気に大きく影響されない。安定した仕事量と収益を確保できる。
- 商品の原材料を地域で取れる農産物に特化し、地域のこだわり（ブランド）商品で、大手企業の商品と棲み分けができる。

# 開拓してきた農産加工製造業

納豆



豆腐



パン



惣菜



生菓子



焼き菓子



粉末製品



冷凍食品



乾燥野菜



果汁



自然塩



麺



## ②1次産業 地域農業へ参入する

- ・ 農産加工品の原材料の確保としての、栽培を実施する  
(大豆・トマト等)
- ・ 地域は小規模の高齢者農家が多い。人手不足、後継者不足であり、作業所に農作業の応援依頼が来ています。障害者が農作業に挑戦しています。
- ・ 農業生産者の指導を受けながらの農作業は難しくありませんが、収益は余り上がりません。福祉的就労・中間的就労として参入は十分可能です。
- ・ 耕作放棄地化を防ぎ、地域農業を護り、食料自給率の向上に寄与し、地域社会に貢献するためにも農業への参入は必要だと考えています。

# 障害を持っている人や 引きこもり青年の農作業

大豆の種まき



大豆の脱穀



モロヘイヤ収穫



ホウレン草収穫



大根収穫



計量・パック作業



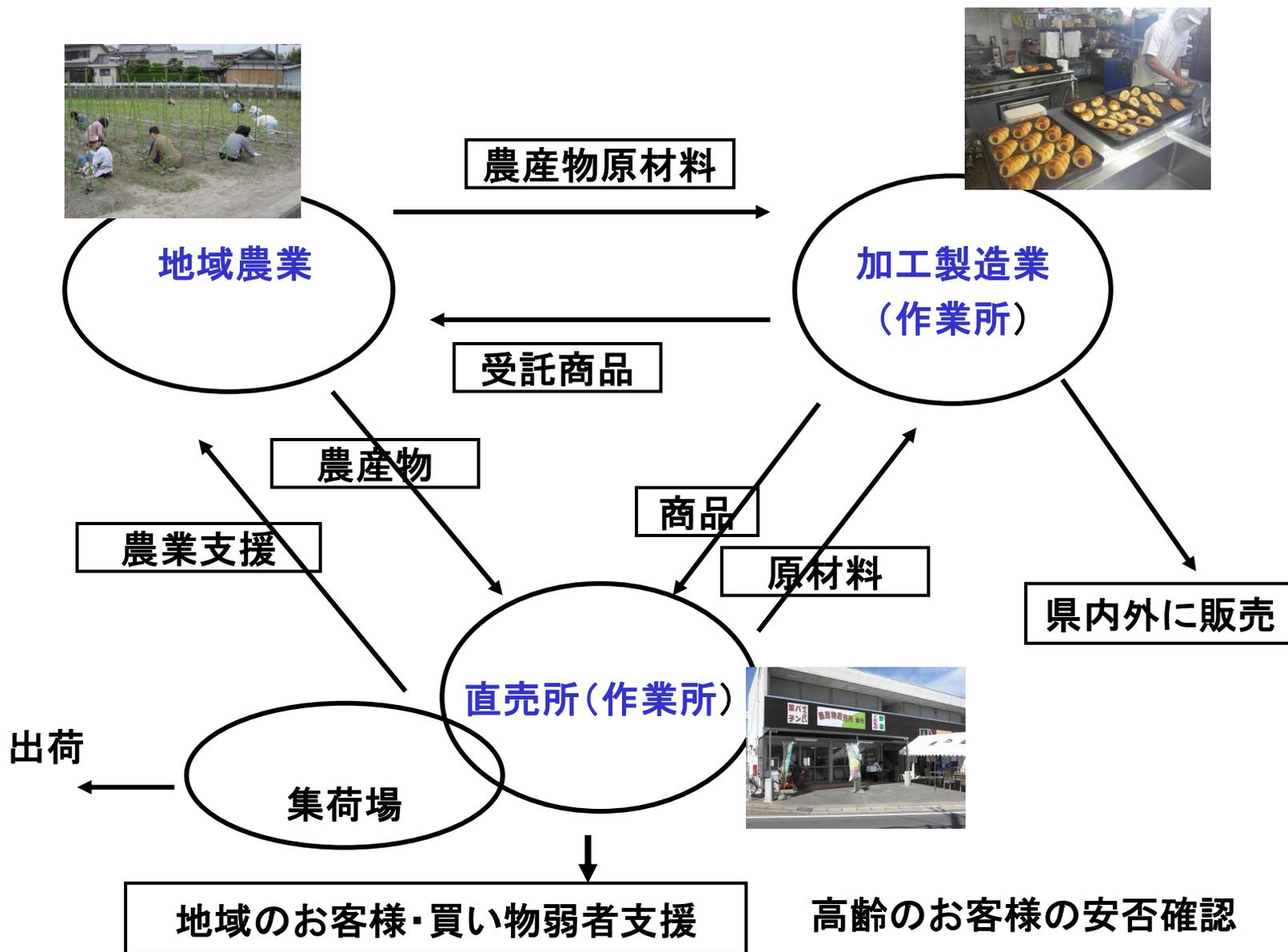
# ③3次産業 直売所を開設する

- 地元小売店が閉店し、食料品や日用品等の生活必需品を購入できる所がなくなり、独居高齢者を中心に買い物弱者が発生しています。
- この実態を踏まえた上で、直売所の開設は地域が緊急に必要としている社会資源であると考えていました。また地域の農業生産者も近隣での農産物販売先を要望しています。
- 地域が必要としているものは仕事になります。民間では採算が合わなくなり撤退したものは、社会福祉法人が引き受けるべきだと考えています。

# 障害者や引きこもり青年にとっての 直売所の役割

- **地域とのコミュニティの場所（障害を持った人や引きこもり青年の地域社会との交流の場）**
- **買物弱者を支援する業務（配達サービス等）**
- **独居高齢者（お客様）の安否確認**

# 地域における6次産業化の関連図



# 6次産業化を生活困窮者の雇用事業として 成功させるためのポイント

- ① 経営は企業的手法を用いる。目標数値を明確にして適正な利益を追求する。
- ② 製造・流通・小売業等の業界での経験を持つ人材が必要（企業で現場の管理職を経験した人材が適している）  
特に商品の営業・販路の拡大をできる人材が必要。
- ③商品のこだわりを明確にする（地域ブランド化を目指す）

# ④生活困窮者に実務的な職業訓練が必要

## 農産加工技術研修(障害者も含む) 地域の農産物を活かした果汁作り

作業の打ち合わせ



下ごしらえ



器具の操作



果汁を絞る



ビン詰め



**⑤福祉・農業・製造業・小売流通業・営業販路拡大  
等、全体の現場を把握し調整できるコーディネー  
ターが必要**

**今後、地方においては、公共投資や企業誘致  
による雇用創出は難しいと考えています。**

**地域資源を最大限活かした、小規模ながらも  
地域に根ざした事業が、各地域で生まれてくる  
ように情報を発信していきます。**